山　梨　北　中　学　校

確かな学力の向上を目指す学習指導に関する研究
～言語活動の充実による授業改善～

Ⅰ　研究の内容

（１）内容

◎ 学年・全校での活動を通して確かな人間関係を育む言語の充実

「生活・学習の基盤である学級・学年の集団づくりにおける言語活動」

「委員会活動・部活動などにおける言語活動」

◎ 楽しくわかる授業における言語活動の充実

「知識・技能の確実な定着のための言語活動」

「論理的思考力の育成のための言語活動」

（２）研究方法

◎ 教科・領域・学年間の連携

『活動の振り返りの充実』

『活動の連続性の重視』

◎ 思考力・表現力の向上

『授業展開の改善』

『発問の工夫』

【研究授業の実践】

・３年英語研究授業（古屋浩紀教諭）

指導助言　甲府市立城南中学校教頭　廣瀬 芳樹 先生

・１年技術家庭科［家庭］研究授業（深澤麻美教諭）

・２年社会研究授業（鶴田一路教諭）

・２年国語研究授業（宮澤梨歌教諭）

指導助言　県教育委員会義務教育課　指導主事　小林　大 先生

峡東教育事務所　　主幹・指導主事　原　嘉雄 先生

Ⅱ　成果と課題

【成果】

（１）教科・領域・学年間の連携

①『活動の振り返りの充実』

学習内容や活動内容についての感想や自分の学習状況・活動状況について書くことで，学習や活動への取り組みについて生徒が考える機会となっている。

②『活動の連続性の重視』

経験知を生かせるようにスパイラルな活動を展開する中で，指導の継続が図られている。また，話し合い活動のように，教科・領域・学年といった壁を越えた取り組みを行うことにより，生徒の負担感も軽減され，活動に取り組みやすくなっていくと考えられる。

（2）思考力・表現力の向上

①『授業展開の改善』

学習内容に応じて，基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに，それらを活用する活動を通して，思考力・表現力の向上を図る授業展開のあり方を考え，工夫するようになってきている。

②『発問の工夫』

生徒が考えるに値する問いかどうかの吟味も含め，生徒に考えさせたいことや，つかみとらせたい内容についての発問のあり方について，考える機会となっっている。

・英語の授業では，他教科教師の協力による音声や折り紙をもとに関係代名詞を用いた後置修飾の学習が行われた。説明しようとする具体的な対象物があることにより，意欲的に学習に取り組む姿が見られた。
・家庭科の授業では，食に関して調理実習をもとに，食材の特徴について特徴をとらえる学習が，話し合い活動を取り入れる中で行われ，話し合い活動のあり方について研究会で検討する機会となった。
・社会の授業では，明治政府の政策について話し合い活動を取り入れた授業が行われた。当時の八幡地区の様子を伝える大変貴重な資料を生徒に提示する中で，当時の政策について考えることができていた。
・国語の授業では，根拠を明確にして書くということについて，例文をもとにして具体的にどのようなことが，説明文の説得力を高めるためには必要なのかについて，学習を深めていた。

【課題】

・話し合い活動においては，役割ごとに使用する表現の例を示すことでスムーズに話し合い活動を進められるようになった。論理的思考力の育成については，言語活動の充実を図るなかで，さらに意識した指導が必要である。
・家庭学習の習慣化も含め，知識・技能の確実な定着を図るため，また学ぶ姿勢を身に付けさせていくためにも長期休業を利用したサポートタイムや定期テスト前の山北タイムの充実を図る必要がある。

Ⅲ　成果物

・学習指導案，振り返りカード（学習記録表），話し合い活動における表現リスト

（研究主任　辻　純二）